

エンジニアリングブリッジの「春の集い」に約65人

エンジニアリングブリッジ(名古屋市中村区、植竹伸二代表理事)は4月19日、名古屋市内で「春の集い」を開催した。会員の工作機械メーカーや周辺機器メーカー、システムインテグレーター、商社、設計会社などから約65人のエンジニアが参加し、技術談義に花を咲かせた。

植竹代表理事は冒頭、「電気自動車(EV)シフトの動きなど、製造業を取り巻く環境は目まぐるしく変化している。こうした状況を乗り切るには、会員同士の知恵や経験を相互に利用しながら新たなビジネスの枠組みを生み出す必要がある」とあいさつした(=写真)。

エンジニアリングブリッジはエンジニアと企業の懸け橋になることを目的に、植竹代表理事が2022年4月に設立。会員数は今年4月19日時点で45社となった。エンジニア同士が一堂



に集まって交流を深める「集いの場」を半年に一度のペースで開催する他、会員同士のマッチングや会員の技術相談に応える「なんでも相談」などのサービスも提供している。